

STAR
きみが★だ
みんなが輝く未来をめざした
学校づくり

KATANO STYLE

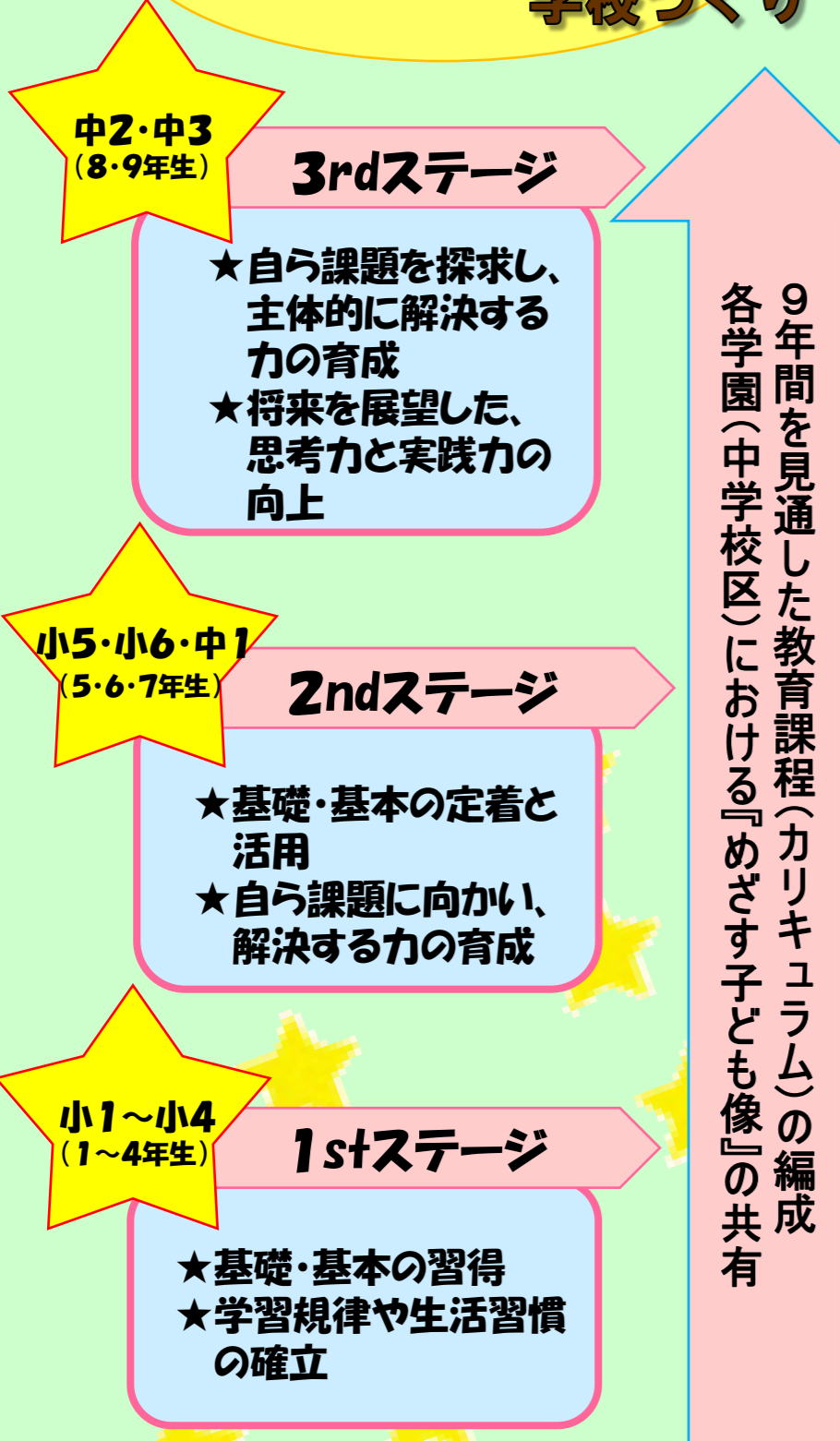
令和3年3月 交野市教育委員会

～交野市の小中一貫教育～

GAKU KOU IKU
学・交・育プランを柱に、



星のあまん おりひめちゃん



- ★自ら課題を探求し、主体的に解決する力の育成
- ★将来を展望した、思考力と実践力の向上

- ★基礎・基本の定着と活用
- ★自ら課題に向かい、解決する力の育成

- ★基礎・基本の習得
- ★学習規律や生活習慣の確立

4-3-2の学年の区切りごとに
指導の重点を設定し、
発達段階に応じた学びの充実と、
9年間の円滑なつながりを
めざします

カリキュラム学び

- 9年間をつなぐカリキュラム
 各教科における小中9年間の連続性、系統性を強化した、9年間を見通したカリキュラムを編成します。
- 「3本の柱」
 『言語活用力の向上』『外国語教育の充実』『プログラミング教育の推進』を、9年間で系統的に実施します。
- 定期テスト
 小学校5・6年生で、定期テスト(国・算・英)を実施し、個々の児童の学びの状況を把握するとともに、中学校のテスト形式に慣れることにより、中学校への不安や戸惑いの軽減につなげます。

交野市は**9年間**で育てます!

Q. なぜ小中一貫教育を進めるの?

A. 義務教育の「質」を変えるためです。

小中一貫教育は、これからの変化の激しい時代を生きる子どもたちに身につけさせたい資質・能力を育成するための、1つの手段です。小中学校の教職員が、義務教育9年間のゴール=めざす子ども像を共有し、9年間を見通した系統的なカリキュラムを編成し、それに基づき様々な取組みを進めます。これらを通して、学習面・生活面での小中学校の段差の緩和・解消、下級生への思いやりの心や上級生へのあこがれの気持ちなどの豊かな情(こころ)の育みが期待できます。

小中学校の教職員が協働し、継続的な指導を実現することにより、子どもたちは安定した環境のもとで安心して9年間の学校生活を送ることができます。

交流交わり

- 小小交流
 学園(中学校区)内の小学校間で様々な取組みを行うことで、小学校における指導の統一を図り、中学校への円滑な接続につなげます。
- 小中交流
 中学校での授業体験や部活動体験、行事見学など、小学生と中学生の交流の機会を設定し、小学生に「あこがれの先輩像」を示し、また中学生の自尊感情が高まる取組みを進めます。
- 教職員交流
 学園(中学校区)における教職員の連携と共通認識を図るため、研修や連絡会などの交流を深め、学習指導及び生徒指導における課題解決に取り組みます。

人育み

- 教科担任制
 中学校教員が小学校で授業を行うことにより、小中の教員がお互いの指導方法について共有することで、9年間のより精選されたカリキュラム作成や指導方法を研究します。また、より専門性の高い指導を行うことで、児童の学習意欲の一層の向上につなげます。
- 「新たな科」
 学園(中学校区)の「めざす子ども像」実現のため、地域人材等を活用しながら、縦(9年間)と横(教科間)のつながりを整理したカリキュラムを編成し、学園の特色あふれる取組みを進めます。
- 学園(中学校区)での学校評議員会
 学園(中学校区)合同の学校評議員会を開催し、学校教育における意見を広く取りまとめ、学校運営に活かせる場となるようにします。また、コミュニティ・スクール(CS)の設置を見据えた組織づくりを進めます。

Q. なぜ4-3-2の学年の区切りなの?

A. 今の子どもたちの発達段階に応じた区切りだからです。

小学校高学年になると、学習面では量が増え、より専門的な内容へと変わり、生活面においては、成長過程の中で、友人関係の悩みやトラブル等が表面化しにくい状況がみられます。

また、中学校に進んだ後に顕在化する不登校やいじめ、暴力行為等の問題行動等も、その兆しは小学校高学年で生じているケースが多く見られます。

このような子どもたちの実態を踏まえ、9年間のよりスムーズな学びと育ちを実現させるため、従来からの「6-3」の大きな枠組みは残しつつ、「4-3-2」の学年の区切りごとに指導の重点を設定し、小中一貫教育を進めていきます。

★令和7年、第一中学校区に『(仮称)交野みらい学園』が開校します★
 9年間の系統性を確保した教育課程を編成・実施する『義務教育学校』で、前期課程6年間、後期課程3年間に区分されます。